

～欣浄寺法語メール～2017年10月～

## 「還座（げんざ）」

京都でのお洗濯を終えた本堂のお仏壇仏具が戻り、来月11月11日（土）午後1時に御本尊をお移しする還座（げんざ）法要をお勤めします。

京都での修復の様子を訪問する機会がありました。かつては本願寺周辺にあったいくつかの工房が郊外に移り、車を走らせての視察です。御本尊を安置する宮殿（くうでん）須弥壇（しゅみだん）の修復は木地師（きじし）、金箔の貼り直しは箔押師（はくおしし）、金紙に蓮など浄土の莊嚴を描くのは彩色師（さいしきし）、それぞれ場所も離れた工房で専門の職人さんが丁寧に欣浄寺本堂の仏壇仏具の修復に取り組んでいてくださいました。「明

治14年の本堂再建後に、これだけ大きな須弥壇に作り直されたようです」との木地師さんの言葉とともに印象に残ったのは、それぞれの職人さんのたたずまいです。「仕事に対する謙虚さ」と言ったらよいでしょうか。「職」とは耳で聞きいてよくわきまえて仕事をする事だそうですが、師匠の教えに耳をそばだてて技量を磨いてきた姿勢がその謙虚さにつながっているのだと思いました。ましてや京の職人さん達です、工房は移転して新しくなっても伝統工芸の粋を極める匠の技は確かにその場に受け継がれていました。

欣浄寺の御本尊は317年前の元禄13年に京都本願寺からお迎えした阿弥陀如来立像です。還座法要を機会に「職」人さんのように私たちも祖師親鸞聖人のみ教えに耳をかた

むけ、仏さまを大切にすることを受け継いできた先人先祖の願いに応えていきたいものです。